

CHINA-HOSPEQ 2016

日本医療機器テクノロジー協会 学術シンポジウム

主催：国家衛生計画生育委員会国際交流センター、(一般社団法人)日本医療機器テクノロジー協会

後援：公益財団法人日中医学協会、中国日本商会、在中国日本国大使館

開催日時：2016年8月20日(土) 14:00～17:20

開催場所：北京国家会議センター 306A+B会議室

●講演内容

オープニング〈座長〉 10分

ご挨拶 国家衛生計画生育委員会国際交流センター 10分

題目Ⅰ 「日本の再生医療の現状と将来」
〈日本医療機器テクノロジー協会 再生医療部会 辻 光一氏〉 発表25分

題目Ⅱ 「日本における腹膜透析の現状と展望」
〈日本医療機器テクノロジー協会 在宅医療機器部会 曾我 岳久氏〉 発表25分

題目Ⅲ 「高齢者医療・介護問題の解決策を探る」
〈東京医科歯科大学大学院 医療経済学分野 教授 川渕 孝一氏〉 発表45分

題目Ⅳ 「患者満足度向上の実践と病院経営人材の育成」
〈聖路加国際大学 法人事務局長 渡辺 明良氏〉 発表45分

休憩 5分 ▶ 質疑応答 30分 ▶ まとめ 座長 5分

一般社団法人 日本医療機器テクノロジー協会

日本医療機器テクノロジー協会(MTJAPAN)は日本の医療機器業界の振興団体です。加盟する企業は約230社。MTJAPAN加盟企業がお届けするのは、「安全で革新的な医療機器テクノロジー」です。

一般社団法人 日本医療機器テクノロジー協会は2000年11月に設立され、会員企業の国内出荷額の総計は1.5兆円以上の規模で、日本医療機器市場の5割強を担う団体です。

本会は安全でかつより革新的な医療機器テクノロジーを速やかに提供することにより、日本をはじめ世界の医療の質の向上と日本の医療機器テクノロジー産業の振興に貢献します。



MTJAPAN
Medical Technology Association of Japan



<http://www.mtjapan.or.jp/jp/mtj/cn/>

題目Ⅰ

「日本の再生医療の現状と将来」

〈日本医療機器テクノロジー協会 再生医療部会 辻 光一氏〉

日本においては、京都大学の山中教授が開発したiPS細胞を皮切りに、一気に活性化された。この革新的な技術の進歩とともに、政府は、この分野の実用化・産業化の促進へいち早く取組み、医薬品・医療機器に加えて3番目の分野として再生医療製品を位置付けて、法制化を進めた。2014年11月に「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」および「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」が施行され、早期承認制度や細胞製造の外部委託が可能となり、再生医療による治療を早期に安全に、患者へ届けられる環境が整った。これにより、それまで製品化が難しかったこの分野の製品が、2015年には早期に2製品承認された。これにより、それまで再生医療製品でありながら、医療機器として承認された2製品を合わせて、日本においては、4製品が承認されたことになり、保険償還が可能となっている。その中で、特に、ハートシートは、条件・期限付きの承認という新しい制度により、7例での有効性・安全性の治験データにより承認を受けている。本製品は、今後、販売しながらデータを取得していくことになる。

題目Ⅱ

「日本における腹膜透析の現状と展望」

〈日本医療機器テクノロジー協会 在宅医療機器部会 曾我 岳久氏〉

日本における透析患者は、2014年末統計調査において約31万人で、そのうち腹膜透析患者は9,255人であり全透析患者の2.9%である。これは、日本の医療費が保険医療で賄われており、血液透析・腹膜透析いずれの治療を受けても患者が支払う金額は治療費の一部である。また血液透析の施設数が多いことも要因にあげられる。腹膜透析の種類は、CAPDとAPDがあり、APDでは、NPD・CCPD・TD・CCPD+マニュアル等患者の状態やQOLにあった治療法が選択される。また、近年では、血液透析と腹膜透析を組み合わせた併用療法の患者数が増えてきている。本邦の透析液は、中性化されたPD液が多く使用されており、透析液での非生理的因子であるpHやGDPsが抑制されている。近年の臨床的効果として長期使用でEPS発生率の低減などが報告されている。また腹膜透析療法は、患者自らが治療を管理する在宅医療であるため、患者の自己管理が重要である。その為、各メーカーが無菌デバイスや安全性の高いマニュアルシステムを開発し、世界的にも腹膜炎の発生率が低い。今後の日本の課題は、透析患者の高齢化であり、特に腹膜透析療法は、在宅医療である為、その支援等が問題になってきている。それを克服するためにASSISTED PDや地域連携、メーカーが在宅患者へ安心して使用できる機器を開発していく必要があると思われる。

題目Ⅲ

「高齢者医療・介護問題の解決策を探る」

〈東京医科歯科大学大学院 医療経済学分野 教授 川淵 孝一氏〉

日本は人類史上、どの国も経験したことのないスピードで超高齢社会を迎えようとしている。そうした中、社会保障制度改革国民会議が2013年8月に今後の社会保障政策に関する報告書をまとめた。医療・介護分野の改革の骨子は次の2点。①急性期から亜急性期、回復期等まで、患者が状態に見合った病床でその状態にふさわしい医療を受けることができるよう、急性期医療を中心に人的・物的資源を集中投入し、入院期間を減らして早期の家庭復帰・社会復帰を実現するとともに、受け皿となる地域の病床や在宅医療／在宅介護を充実させていく。②介護ニーズと医療ニーズを併せ持つ後期高齢者を地域で確実に支えていくためには、訪問診療、訪問口腔ケア、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導などの在宅医療が、不可欠である。そのためには自宅だけでなく、高齢者住宅に居ても、グループホームや介護施設その他どこに暮らしていても必要な医療が確実に提供されるようにする。

その具体的な解決策として日本政府は、「健康寿命の延伸」、「病床再編・脱病院化」、「地域包括ケアシステムの推進」、「日本版CCRC構想」、「介護ロボット・人工知能・ICTの利活用による生産性の向上」などを考えている。というの折からの人口減社会に加えて、日本の65歳以上人口の比率(2015年)は26.3%と中国の9.6%を大きく上回っており、やがて4割を超えるからである。近く高齢社会の仲間入りをする中国でも介護保険制度の導入が検討されているようなので、今後は中日共同研究・事業を始めてはどうか。

題目Ⅳ

「患者満足度向上の実践と病院経営人材の育成」

〈聖路加国際大学 法人事務局長 渡辺 明良氏〉

このセミナーでは、患者満足度向上の実践と病院経営人材の育成の2つのテーマについて考える。患者満足度向上の実践に必要な要素としては、特に以下の3つのポイントを考える。①「患者満足」の内容を吟味する。②「サービスの構成要素」を考える。③「プロセスと結果」の両方を重視する。次に、病院経営人材の育成については、特に以下の3つのポイントに言及する。①人材育成の基本的な流れ②目標による管理の運用のポイント③キャリア開発と人材ポートフォリオ

セミナーでは、聖路加国際病院におけるこれらの実際について、事例を交えながら解説する。



東京医科歯科大学大学院
医療経済学分野 教授
川淵 孝一

(所属学会・主たる社会活動など)

一般社団法人日本医療・病院管理学会(評議員・理事)、日本クリニカルバス学会(理事)、口腔病学会(理事)、財団法人日本医療機能評価機構 評価調査者、一般社団法人全国訪問看護事業協会(理事)、公益社団法人医療・病院管理研究協会(理事)、日本医療経営コンサルタント協会(理事)、一般社団法人日本介護福祉社経営人材教育協会(理事)、愛知県立病院経営改善推進委員会委員、高岡市民病院経営懇談会(座長)、全国衛生産業企業管理協会(顧問)、公益社団法人全日本病院協会(参与)

非常勤講師

神戸大学大学院医学研究科客員教授「先端医学トピックス」、順天堂大学大学院研究科病院管理理学客員教授「医学と社会医療Ⅱ」、瀋陽医学院名誉教授、寧夏医科大学客員教授、中日友好病院客員教授、東京医科大学医学部看護学科「医療経済学」、東京経済大学大学院「福祉・医療施設経営論」、大阪市立大学大学院経営学研究所「医療経営論」

学術関係受賞状況

1997年10月 第11回吉村記念厚生政策研究助成金受賞
2001年 4月 社団法人日本医療法人協会創立50周年記念懸賞論文優秀賞受賞
2001年11月 第54回日本医師会設立記念医学大会「日本医師会功労賞」受賞

略歴

1983年 3月 一橋大学商学部商学科卒業
1987年 6月 シカゴ大学経営大学院修士課程(MBA取得)修了
1989年 8月 民間病院を経て厚生省国立医療・病院管理研究所(現在の国立保健医療科学院)医療経済研究部勤務
1995年 7月 同研究所 主任研究官
1996年12月 国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部主任研究官に併務
1998年 4月 日本福祉大学経済学部経営開発学科 教授
2000年 4月 東京医科歯科大学大学院 教授(現在に至る)



学校法人聖路加国際大学
常任理事・法人事務局長
渡辺 明良

(所属学会・主たる社会活動など)

日本医療マネジメント学会(理事)、日本医療バランスト・スコアカード研究学会(理事)、日本クリニカルバス学会(評議員)、医療経済研究機構医療機関の部門別収支に関する調査研究委員会委員(2003年度～2007年度)、経済産業省医療経営人材育成事業ワーキンググループ委員(2005年度)、日本看護協会社会経済福祉委員会委員(2007年度)、厚生労働省保険医療専門審査員(2009年8月～2017年8月)、日本医療福祉建築協会 医療福祉建築賞選考委員(2011年5月～2013年4月)、奈良県立病院機構経営企画会議外部委員(2015年4月～現在に至る)

非常勤講師 / 役職

1999年10月 国際医療福祉大学 非常勤講師(至:2003年3月)
2000年 8月 広島国際大学 非常勤講師(至:2003年3月)
2003年 9月 日本大学大学院グローバルビジネス研究科 非常勤講師(至:2011年3月)

略歴

1986年 3月 立教大学文学部史学科卒業
1999年 3月 産能大学大学院経営情報学研究所卒業(MBA)
1986年 4月 聖路加国際病院入職 医事課勤務
2001年 4月 聖路加国際病院 人事課マネージャー
2006年 7月 聖路加国際病院 経営企画室マネージャー
2012年10月 学校法人聖路加看護学園常任理事・事務局長
2014年 4月 学校法人聖路加国際大学常任理事・法人事務局長(現在に至る)